

それぞれの素材に応じた手入れを

■皮革

革は人の肌に近いものです。直射日光や紫外線にあたりすぎると、同じように色が変わったり、カサついてきたりします。ですから日ごろのケアが大切です。湿度の高いところに長期間放置したりすると、カビが生えることもあるので、注意が必要です。また、染色加工している皮革を布などでこすったりすると、こすった側の布などにも色が移ることがあります。



銀つき革	ふだんの汚れは乾いた布で落とします。汚れがひどい場合は、まず中性タイプのクリーナーで汚れを落とします。その後に中性タイプのクリームを薄くムラなく塗って、ツヤを出すと同時に、革に栄養を与えます。
ぬめ革	水や油を吸収しやすいので、シミになりやすいという性質があります。使っているうちに色合いが変化するエイジングの楽しみもありますが、新しいうちにぬめ革専用クリームか、保護スプレーで汚れがつかないように予防することも大切です。なお、一般的なクリーナーやクリームはシミになるので、使うなら消しゴムタイプのクリーナーを選びましょう。
エナメル革	革の表面に、ポリウレタンなどの合成樹脂を塗って仕上げたものです。水に強いのが特徴です。その反面、寒さや熱に弱く、ひび割れなどが起きることがあります。一般的なクリーナーで汚れを落としてよくふき取り、エナメル革専用のクリームを塗って柔らかい布で磨きます。
ヌバック革・スエード革・ペロア革・バックスキン	起毛タイプの革は毛の間にホコリが入るので、汚れやすいといえます。また、雨にも弱いので、濡れると色落ちすることがあります。起毛革専用の保護スプレーを使って、新しいうちに予防することが必要です。汚れは、これも専用のブラシで落とし、汚れが落ちにくい部分には、消しゴムタイプか天然ゴムタイプのクリーナーを使いましょう。

オイル 仕上げ革	動物性油などを十分に含ませて仕上っている革なので、水に強く、独特のぬめり感があります。ただし、手入れをしないと油分が徐々に抜けてツヤがなくなり、カサついてきたりします。一般的なクリーナーで汚れを落とした後に、動物性のクリームを塗り込んでなじませるようにしましょう。
白い革	白い革は、日光や照明の光にさらされると、色やけすることがあるので注意が必要です。ふだんは、クリーナーを使って汚れをこまめに落とすようにしましょう。白い革専用のクリームを塗ると、白さの維持につながります。

■合成皮革・塩化ビニール・人工皮革

いずれも石油由来の原料でできているので、水には比較的強く、濡れても水分をふきとれば変質することはないでしょう。その反面、油分には弱く、ベンジンやシンナーなどに触れると、表面が変質したり、変色したりすることがあります。ハンドクリームやマニキュアの除光液などでも変質することがあるので、注意が必要です。また、熱にも弱いので、暖房器具などの近くに置くことは避けましょう。

合成皮革	ポリウレタン樹脂などが塗布しており、年数が経つと表面が剥がれやすくなります。また、表面がソフトなために、キズにはそれほど強くありません。汚れは、薄めの中性洗剤を含ませた固く絞った布で落とすようにしましょう。
塩化ビニール	染色した革と接すると、革の表面が剥がれたり、塩化ビニールの表面に革の色が移ったりすることがあります。また、低温の環境では硬化し、もろくなる性質があるので、使用や保管には注意が必要です。ふだんの手入れは合成皮革と同様です。
人工皮革	合成皮革と同じポリウレタン樹脂などでできていますが、一般的な合成皮革より表面の劣化が遅く、また、しなやかな感触が特徴です。耐用年数にも優れています。ふだんの手入れは合成皮革と同様です。



鞆やハンドバッグなどの修理を 依頼された場合

修理の依頼を受けた場合には、どのように修理したいのか希望を聞き、部品の在庫状況などを問い合わせる必要があるので、修理費用や時間などについては即答できないことをご説明ください。そのうえで、製品を預かるかどうかを依頼者にご相談ください。

次に、依頼者の希望に沿った修理の可否をメーカーに問い合わせ、修理可能な場合はお預かり日数、費用、修理方針などの修理情報をご確認ください。そして、依頼者にその修理情報を正確にご回答のうえ、修理実施の是非をメーカーにご指示ください。

なお、他社や他店舗などで購入された製品の修理については、同じ部品の手配が困難なため、購入店や修理専門店への依頼をご案内ください。

技術者の誇りと自信の象徴 「鞆・ハンドバッグ・小物技術認定制度」

鞆やハンドバッグ、小物の製造業者を取り巻く環境は、グローバル化でますます競争が厳しくなり、技術者の高齢化、後継者不足も深刻です。また、将来において技能の低下も危惧されています。

「鞆・ハンドバッグ・小物技術認定制度」は、鞆やハンドバッグの製造技能の伝承を図るとともに、国内生産技術を向上させることを目的としたものです。技術認定制度を確立させることによって、広く人材を育成して産業の基盤である技術水準の向上と、技術者の地位向上を図ります。

技術認定制度が、鞆やハンドバッグ、小物の製造業界の成長エンジンとなり、資格を取得した技術者が誇りと自信を持って、業界の発展に寄与することが期待されています。